

2024年度(令和6年度)学校評価自己評価表

福山市立精華中学校区	校番 35	福山市立藤江小学校
最終更新日		2025年(令和7年)2月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】
<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒は、人のため・学校のため・地域のためにできることはないかと考え活動を工夫している。 小中9年の縦のつながりやかかわりを大切にしたい取組を継続していく。 子どもたちが主体性を発揮できるように教職員はPDCAサイクルの視点をもってマネジメントしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもったことを探究したり、思いを実現させようと主体的に行動したりする姿が増えている。 自分の考えを持ち、積極的に話したり書いたりするなど、自己表現力の育成に引く続き取り組む。 人間関係の固定化やレジリエンスにややかけるところもある。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力を身につけ、自ら進路を切り拓く子ども 自己肯定感が高く、社会に貢献できる子ども
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的な学び」の授業づくりに取組み、学力の向上を図る。 「自己表現」「あいさつ」に取組み、自己肯定感の向上を図る。 「自分で選び・決める活動」に取組み、自己形成力の向上を図る。

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	主体的に学ぶ力	思考力・判断力・表現力	自己形成力		
<ul style="list-style-type: none"> 笑顔で挨拶ができる子ども 地域に誇りを持つ子ども 自分の将来の夢に向かい粘り強く取り組める子ども 	めざす子ども像	1~4年	日常生活をよりよくするために、様々な情報の中から必要な情報を活かし、解決している。	自分の考えを、相手意識を持って、話したり書いたりして表現している。	思いやりの心を持ち、目標を達成するために、協力し合い、粘り強く努力している。	
学校教育目標 自分を大切に 人を大切に ふるさとを大切に しなかに、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもの育成 「チャレンジ! 藤江っ子」 ~未来に向かって アップデート~	5・6年	日常生活や地域社会をよりよくするために、様々な情報の中から課題に応じた情報を選択し、根拠をもって解決している。	既習事項を活用し、教科・領域及び生活を関連付けながら、自分の考えや意見を工夫して表現している。	誰に対しても思いやりの心を持ち、より高い目標を達成するために、相手の立場や考えを尊重しながら、粘り強く取り組み、やり抜いている。		
現状	テーマ	主体的に学び続ける子どもの育成~自己の学びを自覚し他者との学び合いを通して~				
<児童生徒> 主体的な委員会活動を通して、児童に自分たちで学校をよりよくしようとする気持ちが高まりつつある。自分の思いを表現することはできるようになったが、相手のことを考え伝えるように表現するところまでは十分でない。 <授業> 児童と単元のゴールを共有し、1時間の学びで児童に付けたい力を明確にした授業を意識して行うようになった。教科の本質に迫る教材研究を行うことで、「何を」「どのように」学ぶのかを明確にすることや児童一人一人の学びを大切にすることなどを共有することはできたが、課題は残る。ICTの効果的な活用による授業には一定の成果があった。	研究 内容等	①授業づくりの視点 ~「分かった!やってみよう!!」があふれる授業づくり~ ②指導方法の工夫(教材研究の充実) ~学びをつなぐ、学びでつながる、多様な学びの場の工夫~ ③個に応じた指導の充実 ~「一人一人の学びを大切に!どの子どもみんなに意欲・自信を!」~				
		めざす授業の姿	○「何を」「どのように」学ぶのかを児童と共有し、1時間の学びで児童につけたい力を明確にした授業 ○生活や経験、他の教科・領域と関連付けながら、児童自らが課題を見つけ、主体的に考え、相手に応じて効果的な方法を選択しながら表現する授業 ○単元の終わりの振り返り(自己評価)を通して、児童が学びの変容を実感し自己肯定感を高めることのできる授業 ○関わり合う場の相互評価を通して、友達のよさや自分の成長を実感し、さらなる目標を設定して取り組む意欲を高めることのできる授業			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立藤江小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	「主体的な学 び」の授業づ くりを進め て、学ぶ意欲 と学力を向 上させる。	★	継 続	主体的、協働的 な学びを大切 にした授業づ くりで学力を 向上させる。	・児童が既習事項 や他者の考え、 資料を関連付 けながら思考 し、表現する場 を工夫した授 業を行う。	・学期末テストの 目標点を上回 る児童70% 以上。 ・学び合いを通 して、自分の考 えを深めたり 広げたりする ことができた と答える児童 80%以上	・全体で教材に ついて研究す る会を設け、 各教科等の見 方・考え方を 明確にしなが ら授業構想を 立てた。 ・学期末テスト の目標点数を 上回った児童 国語67%・ 算数66% ・学び合いを通 して、自分の 考えを深めたり 広げたりする ことができた と答える児童 93%	3	3	・情報や、情報 と情報の関連 性などを分類 整理する方法 を学ぶ場を仕 組み、学び方 を身に付けさ せる。 ・学びタイムで 説明する問題 や文章問題等 に取組み、授 業だけでなく 思考・表現の 場をつくる。 ・児童自らが学 びに向かうよ うに予習や復 習を意図的に 仕組む。	・目的にそって 情報を選び図 で整理するな どの方法を学 び、自ら進ん で解く児童が 増えた。 ・単元テストの目 標点を上回る児 童 国語 70.5% 算数 59% ・学び合いを通 して、自分の 考えを深めたり 広げたりする ことができた と答える児童 94%	3	3	3	・問題を解くた めに必要な情 報を整理する ために、分か る情報を読み 取り、書き込 むこと、既習 事項とつなげ て考えること ができるよう 、教材研究 の際の視点と する。 ・様々な文章問 題を学びタイ ムだけでなく 家庭学習でも 取り組む。 ・苦手な学習に も自分から取 り組むよう、 目的意識をも たせる。

							50%を超えている児童 71%			い、読書する環境を整える。	達成見込みの児童83%				
3	教職員の資質・能力の向上を図る。	★	新規	「認知のしくみ」から学習方法を見直し、一人一人の学びを促す教師の役割について研鑽に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換会を定期的に開催する。 主体的に他の教師の授業を参観し対話することで互いに学び合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「挑戦している」「教科が面白い」とする教員80%以上 月1回以上自分以外の授業を参観し対話する教員90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回情報交換会をもち、ノートや各学級で取り組んでいることを交流し互いに学び合うことができた。 月に1回程度互いの授業を見合い交流しながら、互いに高め合うことができた。 「挑戦している」とする教員57.1% 「教科が面白い」とする教員100%。 月1回以上自分以外の授業を参観し対話する教員100%。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換会では、取組経過を交流したり、部内や学年部等で相談したりするなど、更なる対話の機会を増やし、挑戦（チャレンジ）を後押しする風土をつくる。 互いの授業を見合う際には、一人一人のペースに応じた学びが展開されていたか、思考・表現の場が習得活用になっていたかの視点をもち交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換会では、「結果分析取組シート」を基にした取組の交流を行ったり、互いの授業を見合ったりして、学び合う風土が生まれた。 「挑戦している」とする教員81.8% 「教科が面白い」とする教員100%。 月1回以上自分以外の授業を参観し対話する教員100%。 	3	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 今後も計画的な学びの場を設定していく。 児童一人ひとりの学びを促す教師として、教材研究を十分行うことや、保護者、地域、保幼中とのつながりを大切にしていく。
			新規	学校における働き方改革の取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 各自が業務改善に取り組み、学期に1回交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「子どもが自ら学ぶ」授業づくりにあてる時間がある教員80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革について現状分析・今後の取組について協議した。 「子どもが自ら学ぶ」授業づくりにあてる時間がある教員57.1% 	3	2	<ul style="list-style-type: none"> 業務の進捗状況を自己管理することができるよう、各自が見通しをもち、スケジュール管理ができるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 取組の振り返りを行い、互いのスケジュール管理の仕方を交流することで参考にすることができた。 「子どもが自ら学ぶ」授業づくりにあてる時間がある教員72.7% 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 行事予定を把握し、いつまでになにをするとよいか見通しをもって業務に当たることができるよう引き続きスケジュール管理の工夫をしていく。

3	児童の自己肯定感を高める。	★	継続	生活習慣を確立し、自分から進んで行動する児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 学級、全校での活動を児童が主体となって企画運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> 最後までやり遂げられて嬉しかったと答える児童85%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体となって企画運営する活動は、各学級が1回以上、児童会・委員会も1回以上行うことができた。 最後までやり遂げられてうれしかった児童96.1%。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 担当者として、児童がより主体をもって企画運営できるよう内容の充実に努める。 引き続き全教職員で評価し、価値づけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体となって企画運営する活動は、各学級が1回以上、児童会・委員会も1回以上行うことができた。学校行事も児童が主体となって進められるよう、教職員で事前指導について確認し、行うことができた。 最後までやりとげられてうれしかった児童98.7% 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の前に、児童と教師でどのようにしていきたいか話す時間を設ける。 引き続き学年の実態に応じて、児童が主体的に考え進める活動の充実に努める。
		新規	健康維持、体力向上に自ら進んで取り組む児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 自己の健康体力の課題改善に向けて目標を決め取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を達成した児童80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツテストの結果をうけてやりきり週間に体力の項目を付け加えて取り組んだ。 自己の健康体力の課題改善に向けて取り組み目標を達成した児童の割合85.7%。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 休憩時間や家庭などにおいて、継続的に体力向上に努めるよう価値付けを行う。 健康維持のため自らの生活を振り返り、睡眠時間やメディアとの付き合い方などを、見直せるようにやりきり週間の項目に加えて取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 休憩時間などに、児童会、体づくり委員会を中心に体力向上イベントを行った。やり切り週間では、課題改善に向けた運動を継続して行った。 2学期からやり切り週間に睡眠時間とメディアの項目を加え、生活改善を図った。1週間のうち4日以上達成した割合睡眠時間63%メディア77% 	3	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きやり切り週間に体力向上、睡眠、メディアの項目を設け、継続して生活改善に取り組む。 保健や学活などで、睡眠時間等健康維持、体力向上の大切さを伝えていくとともに家庭とも連携する。 	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。